

2022.7.7
No1

店長は社員に何を語るか

日経の記事で『心折れずに新規事業を育てる』という特集記事に掲載されていました。

その中では、まだ世の中に無いサービスを生み出すには、そのサービスが無かった為に自分が知った痛みを原動力にして、諦めずに事業として確立し、世の中に役立つ会社になれるんだ、というエピソードが書かれていました。

私はその記事の中で別の点が目に留まりました。

それは、空いている月極め駐車場を検索して契約できるプラットフォームを作りだした社長の話です。

ネットで検索できる月極め駐車場が無く、自身が苦勞した経験から、簡単に探せるサービスを生み出そうと決意したのですが、とても大変だったそうです。

データが存在しないので、不動産屋を一軒一軒訪問し、紙のファイルを見せてもらい、データ化して登録していく。という地味な仕事を積み上げていくのしか無いのだそうです。

しかも、不動産屋は月極め駐車場の手数料は払って儲からない仕事なので、協力的では無かったと言います。現地の写真も撮りに行ったり、その為に許可を求めたり、

時には怒られたり、... 利益がま、たく出ないまま、ひたすらデータを集める作業を一年間続けたそうです。

その甲斐あって、その後多くの利用者に喜ばれ、今では不動産屋に声かけ易くなったと言います。

しかし、その頃には立ち上げの際に入社したメンバーは全て退社していたと書かれていました。

私は、この「メンバー全員が退職していた」の部分が印象的でした。もしかすると、その社員達は、

『こんな地味で辛い内容の仕事をいつまで続けるのだから？』とか
『大変な仕事の割に給与が安い』など、目の前の事だけ考えて仕事をしていたのではないか？と思いました。

2022.7.7

No.2

その仕事の使命感、成し遂げた先にある喜び。

何のために、誰のためにこの仕事をしているのか？も。

普段から言っていたら粘り強く働いて共に成功を喜べていた人でもないか？と考えたら我が社でも同じ事が起きているだろうと感じたのです。

各店の店長は自店の社員がお掃除、営業、レンタル活動、事務を行なっている人達にどんな事を普段伝えているのでしょうか？

ただこなすだけの作業、指導だけしているとしたら。

仕事量が多いほど損をしているように感じてしまうのではないのでしょうか？

仕事を通じて、今何を学び、学んだ事を活かしてその先に

どんな仕事をしてもらいたいと期待しているかを是非語って

ください。今行なっている活動は、将来自分達の足場を固める事になる仕事です。

そのイメージが出来ないと、淡々やらされている感じになるのではないのでしょうか？

気に入らなかつたら辞めればいいのか、と、いつも賃金の高い募集を探しながら仕事をする、という感覚からいつまで経っても抜け出せません。そうすると会社の中で起る事は、すべて他人事になってしまいます。

社員と呼ばれてもバト感覚で働く事になります。

しかし、少し先の事を考えれば、社員として長く勤めていければ、いずれ世代交代し、自分達が会社を中心となって運営する時代がやってきます。その時は誰も助けくれません。全て自分事です。世間がこうだから、ダスキン本部がこうだから、といくら言い訳しても自分達でなんとかするしかないのです。

そうした場面でも、うろたえず強いメンタルで対応できるように今の社員を鍛えてください。鍛えている最中についてこれない人

が出るのは仕方ありません。ですから、出来るだけついてこれるよう、

何のために今の仕事をしているのかを話しておく必要があるのです。

5年後、10年後、店長クラスの仕事に任せられる人が、今何人居ますか？

2022.7.7

No.3

もし思っ浮かばないならば、しっかりと計画し、すぐに行動しなくては間に合いません。

ほうみアカデミーで、会長を中心として社員を対象にした使命感・理念研修の回数を増やしています。それは、私達がどんな理想も目指して働いているのか？仕事を通じて社会にどう貢献するのか？という事を伝えたいと願っているからです。

冒頭で紹介した月極め駐車場サイトの立ち上げに関わったが辞めてしまふ社員達の中には、後からその会社が成し遂げた事を知り辞めた事を後悔した人が居るかもしれません。

是非そのような悲しい思いはさせぬよう、日頃から語れるよう努力していきなすものです。